

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名 北海道

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	釧路市立日進小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	3	9	26
児童数	17	26	37	24	30	30	12	176	

研究の概要

1. 研究主題

学びのよさを発揮し、「確かな学力」を身につける子どもの育成
～ 個に応じた算数科の指導を通して～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

・全学年算数；児童の理解の程度に差が出やすい教科であるため。

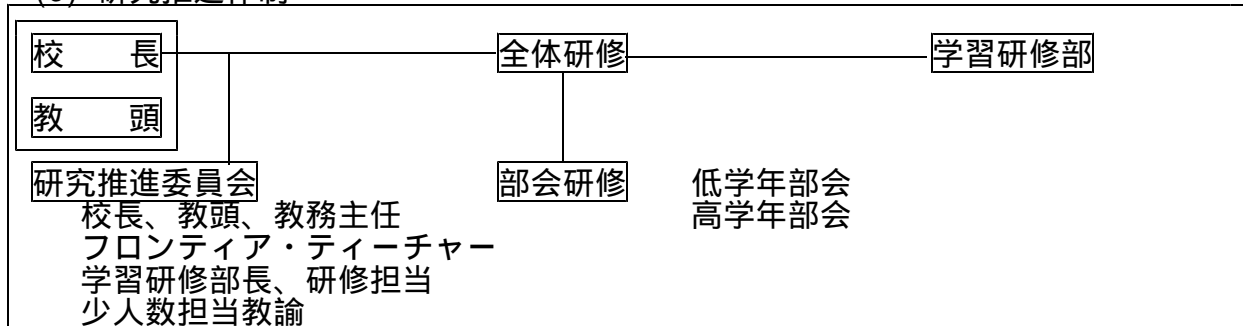
(2) 年次計画

平成14年度	
--------	--

平成15年度	<p>テーマ 「個に応じた指導のための指導体制、指導方法の工夫・改善」</p> <p>研究の見通し 平成15年度；個に応じた指導のための指導体制、指導方法の工夫 平成16年度；指導と評価の一体化、個に応じた指導のための教材開発</p> <p>研究の内容・方法 内容； 個に応じた指導のための指導計画の作成と指導方法の工夫 個に応じた指導のための教材開発の工夫 方法；理論研修、授業研究、実践交流</p>
--------	---

平成16年度	<p>テーマ 「個に応じた指導のための指導と評価の一体化」</p> <p>研究の見通し 指導と評価の一体化、個に応じた指導のための授業の充実、個に応じた指導のための教材開発</p> <p>研究の内容・方法 内容； 個に応じた指導のための指導と評価の一体化と授業改善 個に応じた指導のための発展的な学習や補充的な学習の教材化 方法；理論研修、授業研究、実践交流</p>
--------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

子どもたちの学習に対する関心、意欲が高まってきた。
子どもたちの実態や求めに応じたきめ細かな指導を行うことができようになり、子どもたちの学習に対する関心や意欲の高まりが見られるようになってきた。
子どもたちの学力の伸びが見られるようになってきた。
各学年とも単元末や学期末の総括評価において、主に「知識・理解」や「表現・処理」の観点について「十分に満足できる」状態の子どもたちが増えてきた。

2. 今後の課題

指導計画と評価計画を適切に作成・活用し、「指導と評価の一体化」を目指した授業づくりを推進する必要がある。
特に、発展的な学習や補充的な学習の教材開発を推進し、より一層個に応じた指導の充実を図る必要がある。

学力等把握のための学校としての取組

今後すべての学年で5月と2月に算数科の学力検査を実施し、到達度の変容を調査する。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

平成16年2月13日(金)「習熟度別学習指導実践交流会」の開催
本校の研究実践を公開するとともに、道東地区小学校学力向上フロンティアスクール4校の研究内容を発表・交流することを通して、参加者が「個に応じた指導」についての理解を一層深めることができる場とする。
本校ホームページで研究内容を公開する。(随時更新予定)
「学力向上フロンティア通信」を年3回(9月、12月、3月)発行し、管内の全小・中学校に配布する。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上

【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他

【研究教科） 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無